

# 東洋陶磁学会 第三十五回大会のお知らせ

錦秋の候、会員の皆様には益々ご清祥の事と存じます。  
 この度、平成十九年度の大会を、左記のとおり開催致します。  
 奮ってご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

東洋陶磁学会

## 記

\*日 時 平成十九年十一月十七日(土)・十八日(日)

\*会 場 東京藝術大学 美術学部 中央棟一階 第一講義室

東京都台東区上野公園 十一一八

電話 〇五〇・五五二五・二三五四(竹内研究室直通)

<http://www.geidai.ac.jp/>

\*テーマ 「東洋の鉄絵・鉄砂・錆絵」

### 《開催趣旨》

鉄絵とは、鉄分を含む顔料で文様をあらわす技法をいう。入手しやすい身近な材料を用いることから、中国では青磁の完成とともに始まり、最も普遍的な絵付け技法として広く行われた。コバルトを呈色剤とする染付(青花)がさかんになってからも、日用の器の装飾技法として存続した。鉄絵は日本、朝鮮、東南アジアにも伝わり、日本では錆絵、朝鮮では鉄砂ともよばれる。鉄絵は陶磁史の底流に脈々と受け継がれていながら、その問題はこれまで取り上げられることが少なかった。大胆で生氣に富んだ表現に特色がある鉄絵の展開、特質、影響関係、陶磁史上の位置づけ等について、地域・時代の枠を超えて考察する。

### \*日程

十七日(土) 午後一時より受付 午後一時三十分開会

・ 東洋陶磁学会常任委員長挨拶

伊藤郁太郎

・ 基調講演

「唐宋の釉下彩」

長谷部楽爾

・ 見学会

東京国立博物館 (東京都台東区上野公園 十二一九)

特集陳列「描くやきもの…奔放なる鉄絵の世界」

(本館第十四室)

特集陳列「高麗翡色青磁の誕生」 (東洋館第十室)

東京国立博物館平常展示

・ 懇親会 午後六時〜 於・東京藝術大学美術学部 大浦食堂

十八日(日) 午前九時

・ 研究発表

「中国・三国呉の鉄絵―南京出土

「釉下彩絵瓷器」の位置づけ」

小林 仁

「タイの鉄絵」

矢島律子

「高麗時代の鉄絵」

吉良文男

「肥前の鉄絵」

鈴木由紀夫

「瀬戸・美濃の釉下鉄彩」

井上喜久男

「日本陶磁における鉄絵装飾の受容と展開

―近世・近代を中心にして―」

荒川正明

・ 討 論

「東洋の鉄絵」(司会：伊藤嘉章、今井敦)

### \*費用

・ 大会参加費(参加者全員)

二、〇〇〇円

・ 見学会費(十七日・申込者のみ)

五〇〇円

・ 懇親会費(十七日・申込者のみ)

三、〇〇〇円

・ 昼食費(十八日分・申込者のみ)

一、〇〇〇円

### \*交通

・ JR 上野駅・鶯谷駅 下車徒歩十分

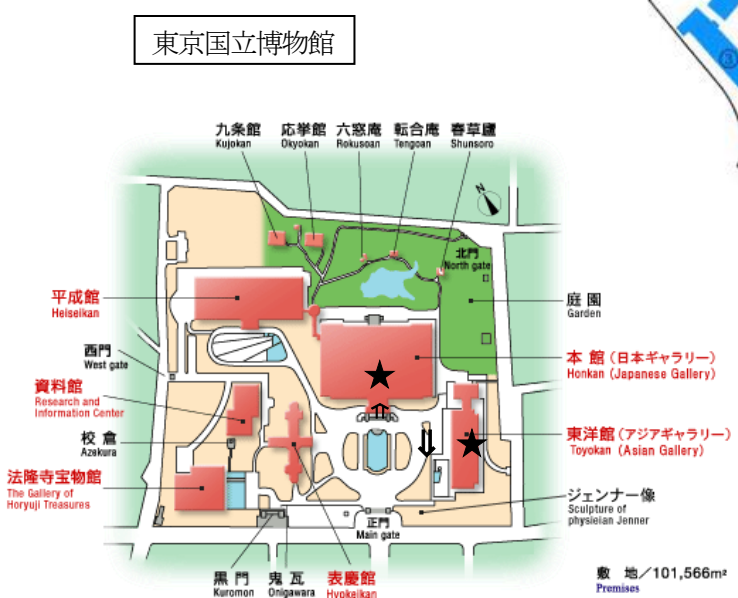
・ 東京メトロ 銀座線・日比谷線 上野駅 下車徒歩十五分

千代田線・根津駅 下車徒歩約十分

・ 京成電鉄 京成上野駅 下車徒歩十五分



東京藝術大学  
⑦ 美術学部中央棟



### 【注意】

・ 参加申込は**十一月八日迄**に、振込用紙にてお願い致します。  
 ・ 発表の演題および順序が変更される場合がございます。

### 東洋陶磁学会

一〇一・〇〇六一 東京都千代田区三崎町二一六一九 三栄ビル二〇一

TEL・FAX 〇三・三三三九・一二七七

<http://homepage3.nifty.com/kyotofuji/>